

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：宇賀ふれあいセンター
2. 日 時：令和 7 年 7 月 22 日 19：00～20：45
3. 参加人数：24 名（教育委員会を除く）
4. 主な質疑

■参加者

3 期するとき、小串と宇賀が同時に統合する提案だったが今回もそうなのか。個別に先に宇賀又は小串なのか。それから、前回この説明会が終わった後に P T A を集めて個別に説明会があったが、今回もそういうことがあるのか。例えば、地域も入れて説明会を開いていただきたいと思うがどうか。あと、期限はどうか。

□教育委員会

宇賀と小串が同時に学校統合するのが望ましいが、地域との合意形成の上で進めていくので、例えば、片方は統合して片方はそうではないとなったときに、それは先行して統合するという議論はあり得る。

豊北地域で言うと、豊北で 1 校というときに段階的に統合していった事例もあるので、1 校が先行して結果的に統合するという結論もあり得る。教育委員会としては、基本として同時が望ましいと思う。

それから、P T A との協議は、いつ頃にどうするかについては、スケジュールを決めているわけではない。適正規模・適正配置の関係や教育活動に関する意見交換は、地域から要望があれば、随時、教育委員会も参加したいと思っている。期限については、今回が 4 期計画ということで、令和 7 年度から 11 年度までの 5 年間である。その 5 年間の間に、組み合わせを示している統合パターンを統合していくべきと考えているが、地元の理解と協力が必要である。各地域において合意形成ができなければ、統合を進めた事例は今までない。令和 11 年度になったら一斉に実施するという考えは持っておらず、統合を目指す、あくまでも地域での合意が前提である。

■参加者

今の話で気になったが、宇賀小と小串小が川棚小に統合される。例は悪いが、宇賀小は統合に賛成であるが、小串小は反対となったときに、宇賀小は川棚小に行くのか小串小に行くのか。

□教育委員会

適正な規模を確保するための統合案である。宇賀小も小串小も優先対象校で極小規模校になっている。提案としては、3校を統合して川棚小の位置を統合校とする。宇賀小と小串小で、もし統合のタイミングが違うとなったときも、統合校の位置はやはり川棚小という考えである。小串小は統合しないが宇賀小は統合するとなったときは、それが良いかどうかは話し合いになる。

■参加者

校区を外してオープンにするようなことはできるのか。

□教育委員会

今の話はおそらく小規模特認校といって、市内全域から児童生徒を募る制度のことと思う。現在、下関市においては、うつい小中学校でこの制度を導入している。うつい小中の場合も、3期計画で小学校と中学校を1つにして小中一貫教育校をスタートし、小規模特認校を導入した経緯がある。地理的な条件、下関の真ん中にある等の条件から小規模特認校を導入した。複式学級の解消をするために、複式を解消できる程度の10名を募集人数としてスタートしたが、その定員まではまだ届いていない。1学級分、小学校1年生と2年生は複式を解消できて、若干、子供が増えているが、まだまだ子供たちが集ってくるという状況にはなっていない。成果と課題を検証しているところである。そうした状況で、同じ市内に複数の特認校を設置するということは、現時点は考えていない。

■参加者

先日、耳に入った中で、宇賀に双葉保育園があるが、宇賀の子供たちはいないが、別の校区、小串、川棚、安岡とか、そのようなところから双葉保育園に来ている。双葉保育園を卒園したら、宇賀小学校に入りたい子がいるとか。小串でも宇賀に行きたいな、川棚の人も宇賀に行きたいなと、少数意見だがそういった話もある。

今、適正配置で川棚小学校というのが頭からあるが、いろんな地域から宇賀に行きたいという人たちの意見とか、宇賀小と小串小を一緒にして宇賀小に通わせたいという意見は頭はないのか。

常に、川棚中心ということではなく、今は空き家のこともある。空き家のことで宇賀が過疎地とのこと。そういうところをしっかりと空き家対策をして、子供たちが宇賀に来て、農作業体験をしたり、海岸で遊んだり、そういうことができる環境を宇賀を中心にいろんなところにPRしていただきたいと思っているがいかがか。

□教育委員会

実際に制度として、校区外通学承認制度がある。他の学校に通学したいからというフリーなものではない。一定条件のもとに他校区に通学するという。例えば、入学前に友達関係でうまくいかなかったり、逆に幼稚園等の友達関係を維持したいとか、教育的配慮というところで、妥当性があればそこをしっかりと協議しながら承認していく。現時点で、小規模校から一方的に大規模校に行くということではなく、双方向でいろいろな理由、家庭の事情であったり、子供の事情であったりで妥当と判断したときに承認している。

■参加者

豊北小学校は令和2年に統合しているが、5年が経って学校の様子はどういう状況なのか。また、学校がなくなった地域が実際どうなっているのか。もし宇賀に学校がなくなれば、その後に地域がどういう対応ができるかというのを考えると、今の豊北地域はどういう状況となっているのか、把握していたら話を聞かせていただきたい。

□教育委員会

豊北小学校の状況は、統合して5年たっているが、学校はすべて各学年1学級。それぞれの地域から、豊北小学校に、バスで登校しバスで下校している。

教育活動の内容として、例えば遠足がある。7方向からバスが来ているが、毎年みんなでその地域に順番に遠足をして、広く地域を知っていくという教育活動を行っている。地域の方は距離もあるので、学校の方からそういった動きをとっている。いろいろなところで工夫をしながら実施している。

学級の人数としては20名程度。20～30名を維持している。実際、子供の出入りも多いし、他市から転校する例もある。いろいろなところで子供たちの繋がりが広がっている状況にある。もちろん課題もあるが、その課題をみんなで解決していくために、お互いに協議等もしながら工夫し進めているという現状である。

■参加者

先ほど豊北小学校で課題があると言ったが、どのような課題か。

また、統合に向けて、子供たちが適正化に向けて計画的に事前に交流授業等を実施するとは、具体的にどのようなことか。

□教育委員会

課題 1 つ 1 つをすべて把握しているわけではないが、もともと遠いところにそれぞれあった学校の子供たちが通学してくるので、バスでの通学になる。時間を合わせて登校をする。そういった通学の面。

それから事前の交流については、それぞれの学校には特徴のある活動があり、いろいろと実施されている。例えば海側の方であれば魚を釣ったり、山側の方であれば山菜を採ったり、そうした行事の繋がりを、実際に学校統合が動き出したところでしっかりと練っていく。ケースバイケースである。地域によって交流の持ち方は違う。実際の動きが始まったところで、そうしたところも動いてくる。動きもない中で、いろんなことをやっていくのは難しい状況である。

■参加者

統合に向けて地域の話聞く。対象になる保護者の話を聞く。

□教育委員会

統合となると、合意してから最低 2 年にかかる。一番関心があるのは小学校低学年とか就学前の保護者である。もちろん保護者の意見を伺う場は大事と思っている。どう設定するかは、校長先生や PTA に相談する。就学前はどういう形であるかは相談を行う。市でいつどこでというのはないが、相談してそのような場は持ちたいと思っている

□教育委員会

今の話について、保護者や入学前の保護者の話を聞くということで、学校運営協議会等の関係者と保護者というのもあるでしょうし、保護者だけというものもある。学校を運営している地元も合わせて話を聞くのか、保護者や保育園幼稚園の保護者も一緒なのか、そのあたりは相談したい。

■参加者

自分は説明会参加は 4 回目。

保護者や地域に説明するときに、メリットとデメリットをきちんと説明していない。子供にとっては人数が増えて人間関係が広がる良い面はあるが、人数が

増えたことで注意力が散漫になって成績が下がるかもしれない。今まで受けられていた手厚い地域の援助が受けられなくなる可能性がある。そして、その結果地域が衰退する可能性がある。今までの説明会でデメリットを説明していない。保護者に対してメリットばかりを説明したら、保護者はやっぱり学校統廃合しなきゃとなって、挙げ句に地域が衰退して、保護者にとっては地域が沈むなんて説明会で何も聞いていなかったと思うのではないか。

遠足に行っていると言ったが、7つ校区があって原則1年に1、2回しかない。その間の地域学習は何をしているかというのと、どうしても滝部に偏る可能性がある。下関が作っている地域学習の教科書を見たが本当に偏りがあり、使っている地図は10年以上前のもの。本当に地域学習がきちんとできないと思う。

デメリットの1つに川棚小学校が水害の浸水地域であり、交通面でも、とても不便なところにある。今までの説明会できちんと説明していない。説明会ではちゃんと両面を説明していただきたい。

先ほど、内日みたいに他の地域から来れないかと聞いたら、小規模特認校は1校しか認めていないと言った。今、豊浦町内でも32名の子供が他の学校に行っている。数年前に市議会で、300人の子供が自分の校区でない学校へ行っているという答弁があった。先ほどの保育園で他の地域から宇賀に来たいということがあった場合に、ほかの学校の環境が悪いから宇賀小に来たいという親がいた場合、本来教育委員会は拒んではいけない。特認校があろうがなかろうが、他の学校に行きたいというのは拒めない。私たちが知らないから、高いハードルがあると言ったが、娘の同級生はバスケットがしたいからと、黒井から川中中学校に進学している。ほかの校区に行けない、高いハードルがあるというのもウソ。本当に説明会では、正直に本当のことを話していただきたい。

□教育委員会

校区外承認の件は高いハードルがあるとは言っていない。一定条件のもとに承認している。過去のものかどのようなものであったのかは把握できていないが、当時からきちんと審査をして認めている状況である。高いハードルというのは違うと思う。適正に判断して行っている。

■参加者

児童生徒の推移を見たが、人口減少がおきるのは先進国では、昔からわかっていたこと。下関は1980年から人口は減っている。45年前のこと。それに対して策を打っていたが、これを見ると効果がなかったということ。高いハードルではないといったが、データを見ると児童生徒は減っている。人口減少はあるが、子育て支援を市に呼びかけなかったこと。抜本的な問題ではないか。

□教育委員会

人口減少の対策、少子化の対策は、市の最重要なところ。人口減少は合併前からである。合併したのも人口減少が課題であった。その間、市では施策として人口減少をいかにして止めるか、いろいろな施策をしている。結果として人口減少に歯止めがかかっていない。増えるのが一番いいが、歯止めがかかっていないのが事実である。やらなかったらどうなるかは結果はわからないが、市の施策を行った結果で、減少状態になっている。これは市が特に理由があってこうなっているという状況ではない。日本全国で言うと東京に集中して、近隣で言うと福岡に人が流れている。そういった中で、その周辺の自治体の人口が減り続けている。各自治体でもろもろの施策を行っているが、人口減少に関しては、なかなか成果が上がらないのが実態である。結果が出ていないというお叱りの声は受け止める。施策をやっていた結果としてこれがある。解決はかなり難しい問題と実感している。何もしないで良いというわけではないので、今、最重要施策ということで若者世代が住みやすい施策をやっている。

■参加者

何のことを言っているか全然わからない。やってます、やってますと言っているが、結果はこうなっているわけではないか。もっと専門家とかを呼んで対応してもらった方がよい。数字に表れてる。こういう問題が起きたときに、学校だけ切り捨てるというやり方はどうなのか。今度、川棚の人口が減ったらどうするのか。またどこかと統合するのか。根本的な解決になってない。

□教育委員会

地域に学校がなくなって良いと思っているわけではない。豊北では、広い地域に小学校1つ、中学校1つになった。今も少子化が続いている。広い1つの地域の中で学校がなくなることはだめだと思っている。地域から学校をなくしてはいけないと思っている。豊浦地域に関しては、豊北と少子化のスピードは違っているが、やはり統合して新しい校区をつくって、学級数を確保するという段階にあると思っている。さらに少子化が進んで、統合が進んでいった先に、豊浦町で仮に小学校1つ中学校1つになって、そこが少なくなったからといって学校がなくなって良いとは思っていない。

■参加者

先週、黒井の説明会に参加して強く感じたことがある。市、教育委員会、住民、本当に心から統合したい人はいるのか。全員統合したくないのではないのか。本当に是が非でもと思っている人はいるのか。

□教育委員会

今ある学校がなくなってよいと思っている人はいないと思っている。学校には一定の規模が必要で、そもそも学校は、子供たちが集まって学び、育つところである。国語や算数の教科だけではない、子供たちが触れ合って、時には競い合って、そういう中で育っていくのが学校である。それには一定の規模が必要というところで、数字的に線を引いて、5学級以下のところは課題の方が大きいという判断をしているので、その一定規模を確保するために統合を行う。学校がなくなってよいとは思っていない。地域の皆さんは統合に賛成していないと思っている。そういう気持ちの中で話しているのは重々承知の上である。ただ、残すか残さないかの議論をしていかなければならないので、教育委員会は統合すべきという案を出している。それに対して地域、保護者がどう考えるか、そこを合意しなければ先には進まないなので、そこをまず提案をさせていただいて、考えていきましょうというのがこの計画である。そこは理解していただきたい。

■参加者

私の勝手な印象だが、宇賀小学校の子供は賢い。川棚小学校は挨拶をしない子供が大勢いる。教育委員会が望んでいる児童像はむしろ宇賀小学校にあって、川棚小学校の子供を宇賀小学校に来させる方が、地域として子供たちが育っていくのではないか。人数が少ないので、授業で先生にあてられる回数も圧倒的に多いのではないか。授業参観に行っても感じる。学習発表会の演劇でも、人数が少なすぎて一人の役が多く、成長の度合いが比べものにならない。大規模校では主人公がたくさんいてリレー方式でやるが、宇賀は1人で演じる。それどころか1人2役で、2つの役を演じ切る。そういう学校の子どもは伸びる。自分は東京から来たが、本当に最初びっくりした。この子供たちはいったい何だという驚きがあった。小規模校をなくすのではなく、大規模校から小規模校へ児童を連れてくる方が地域にとって良いのではないか。校区を自由にすることを考えてはどうか。

□参加者

大きな学校にも、小さな学校にも良さがあるが、課題もある。大きい小さいの良さと課題は表裏一体。例えば、小さいところでは役がたくさん回ってくる、ところが多くの人のものであることはない。それはいろんな影響の仕方が、それぞれ良さと課題があるが、一定の規模は必要だということで今回提案している。極端に言うと、0人になれば休校になるが、1人でも学校はやる。1人でも、先生は同じ授業をする。それぞれ課題がありながらも学校を運営していくことに変わりはない。多ければ良いという考え方ではなく、一定の規模が必要だという考

えて、少なくなったところについて提案をしている。教育委員会は提案するが、良いか悪いかは、そこは保護者、地域でどうなのかというのは議論していただきたい。小さな学校はメリットがある一方で、やはり小規模で心配する保護者の意見も直接いただく。一定の規模は必要という保護者の意見もあるので、どちらも意見には変わらない。そこは地域で議論して、最終的にどうするのか、時間がかかるのであれば、いつになったら統合するという形は今までとっていないので、意見の交換から始めて議論をしていく。

■参加者

メリットとデメリットという話があった。小規模のメリットとデメリットをしっかりと調べて説明していただきたい。今後、このような説明会があるとき、今説明できればいいが、なければメリット・デメリット、小さな小学校のメリットはこんなことがあるよとかを説明していただきたい。

□教育委員会

メリット・デメリットについて、下関市の場合は事例が少ないので、文部科学省の資料を引用して説明する。これは文部科学省が出している「公立小学校・中学校の適正規模適正配置の手引」というのがあって、文部科学省が、平成 26 年「学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」という全国調査をやっている。例えばその内容が、人間関係等になると数字例えば何%ということではなく、言葉で書いてあるので少し紹介をする。

まず過去の統合事例から、児童生徒への直接的な効果として概ね次のようなものがある。合併、統合した事例で良い結果が起こった事例は、良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった、社会性やコミュニケーション能力が高まった、友人が増えた、男女比の隔たりが少なくなった、多様な意見に触れる機会が増えた、異年齢交流が増えた、集団遊びが成立するようになった、休憩時間や放課後でも外遊びが増えた、学校が楽しいと答える子供が増えた。こういったことがメリットとして挙げられている。

逆にデメリットというのはこれにはないが、小規模校のメリットの裏返しデメリットになるのではないかと。例えば小規模校のメリットは、きめ細かな学習指導、先ほど話があったが、子供一人一人が学習や学校行事、学習発表会等で活躍できる場が多くなる。その裏返しになる。

大規模校だからきめ細かな指導をしないというわけではないが、小規模校のようなマンツーマンに近い指導は難しい。先ほどの学習発表会のように一人がずっと舞台の上で活躍するのではなくて入れ替わりになる。そのあたりがデメリットといえばデメリットである。

■参加者

メリット・デメリットも、地域の特性があると思う。今まですごく多いところから減ってきたところ、少人数の学校で減ってきたところ、場所によって地域によってメリット・デメリットがある。文部科学省の資料が当てはまるかという疑問がある。地域の特性等を鑑みたメリット・デメリットを説明をしてほしい。それは一部分の統計の話である。地域をもう少し把握した上で。

■参加者

先ほどの質疑応答で、川棚小学校の水害の話があった。それはこの先危険があるのか。これから対策は図られるのか。

□教育委員会

川棚小学校の場所は、川棚川が近いので浸水地域になっている。学校があり人も住んでいるので、ハザードマップ上ここは浸水するところと示して、その上でどう安全を確保するかが大事な部分である。川棚小学校の対策はしないといけないと思っている。一方で、小串小、宇賀小は浸水地域ではないが、土砂災害はある。種類は違うが警戒しないといけないことには変わりはない。個々の学校で対策をしていかなければいけない。川棚小学校をすぐに建て替えるのは現実的ではない。川棚小学校は、学校として対策をしていかななくてはならない。

■参加者

子供が宇賀小から夢が丘中へ進学した。懇談の時に担任が謝ってきた。周りがうるさくて授業にならないと。子供からも担任には言っていて、家でも聞いていた。うるさくて授業が聞こえない、聞きたいことも聞けない、先生が怒鳴っても聞かない、横から話しかけてくる、嫌と言ってもまたしてくる。夢が丘中学校が悪いのではなくて、小学校からの積み重ねでずっとそうなる。川棚小学校を悪く言うわけではないがその傾向が強い。

宇賀小できちんとしていた子供たちが、大きい学校で授業を受けられるのか。メリット・デメリットはあるが、統合して川棚小学校へ通わせる保護者の意見をしっかり聞いてもらいたい。小規模校のメリットの方を優先した中で子供を育てていきたい保護者もいるので、そのような意見も大事にしてほしい。

児童生徒数の推移を示しているが、10年後はかなり少なくなる。1名2名になると統廃合になる。そうするとデメリットが大きくなって、ここだけの数字で見ると、保護者は仕方ない統合するとういことになってしまう。

■参加者

意見記入欄紙を配っているが、今日出せなければファックスとかメールとか郵便で7月31日までに届けば自分の意見が述べられることになっている。

豊浦町で毎年やっている「私の主張」で、それぞれの小学校の子供からいろいろな意見があがってくる。家族のことや、小学校で学んだことを発表する場がある。豊浦町では大切に思っている。それが川棚と誠意2つになると難しくなることが懸念される。

■参加者

先ほど川棚小学校の話があったが、川棚地区の説明会は今回はない。もし小串と宇賀が統合するなら川棚地区の人はどう考えているのか、話を聞いた人はわかるが地域に情報がない。

今、やんちゃな男子児童がいて、先生の言うことをきかないという話を聞いたことがある。そういう中に宇賀の子どもを入れるのはかなり疑問があると思うが、これは人も変わってくるのでどうなるかわからない。要するに川棚小学校の情報をある程度まとめて、小串小や宇賀小に情報提供していただければ、どのような状況の学校かということがわかった上で、賛成反対の意見も出るのではないか。そのへんの情報をお願いできればと思う。

□教育委員会

黒井公民館での説明会の際、川棚地区の説明会がなぜないかという意見だった。実際は全校区回るわけではないので、特に統廃合で学校がなくなる地域や、今回計画の内容が変わった地域を回っている。その関係で川棚校区の説明会がなかった。改めて保護者から求められたので、いつかは決めていないが川棚地域でも説明する機会を設けたい。今日の説明会で統廃合に賛成か反対かを聞く場ではない。提案をして今後話し合い、意見交換をしたい。その中で情報提供はしたい。

■参加者

先ほど小規模校のメリット・デメリットについて気になったのは、下関市の事例が少ないということ。地域の宇賀や小串のデータがないのはすごく寂しい。それで、文科省で説明する話であればインターネットを調べれば出てくる。下関市の小規模校のメリット・デメリットがあればよかった。これは感想である。

■参加者

メリット・デメリットはあるが、宇賀小学校を残してほしいと心から思ってい

る。こんなに地域力のある地域はほかにはないと自負している。地域を巡る遠足をしているが、地域の方がそれぞれ集まって子供たちを迎えてくれるときに、これが年1回の楽しみ、子供の声が聴けなくなって寂しいと言われていた。統合して地域が廃れていってもいいのか…と感じる。デメリットは不透明だが、スクールバスの揺れが心地よくて寝てしまって、1時間目に目が覚めていないとか、今度はそれが下校の際寝てしまい夜寝るのが遅くなって、早寝早起きができないという現象もある。

今、宇賀小学校では、毎朝地域の方々が一緒に歩いて登校して、帰りも必ずついてきてくれる。そうやって、生活のリズムの基本となるところが統合することで崩れてしまう。教育的配慮で隣の学校に来てよかったという話も聞いている。そういうのが統合で減ってくるのは、自分の子どもが統合して不登校にならない保証はない。宇賀小が小規模特認校になればよいと思う。豊浦町の「私の主張」で宇賀小の6年生が、宇賀小の児童を増やすためにと3つの主張をした。ホームページを作る、土地を活用する、空き家を活用するということを提案した。それに対して、地域が、ホームページを作ろうと背中を押してくれている。空き家を活用できないかということもスタートしている。その可能性を見守っていただきたい。

今は宇賀小学校では、先生が地域にも広く開けた学校づくりということで、地元の人にも学校に来てもらうということを考えている。その取組を地域一体となってやっている。この取組は、全国的に模範となるような良さが伝えられるモデル校となるようなことをしている。

■参加者（黒井での説明会を受けて）

パブリックコメントを、説明会を受けて出すので少し遅れてもよいか。締め切りは7月31日厳守か。議事録を出すと言ったがいつできるのか。遅くなるのであれば、まちづくり協議会で、自分は豊浦町4か所の説明会に参加して簡単な議事録を作っているの、というものが出たかが知りたければ声をかけていただきたい。進め方について、今1合目から10合目の何合目かという問いに、まだスタートラインに立っていないと言った。地域と保護者と、今度子供の意見を聞くと議会で答弁している。夏休み前に聞くかと思ったら聞いていない。9月に議会ということで間に合うのかちょっと不思議。とにかく、地域と子供とそれから保護者の意見をまとめて、署名を提出して初めて話し合いが進み始めると他の地域で言っていた。

□教育委員会

パブリックコメントは、集計する上で間に合わなかったものに関しては柔軟

に考えると回答した。基本計画として策定しても、それがイコール統廃合の実施ではない。実施に向けては地域、保護者と意見交換をし協議をして、合意を確かめてから統合の準備に入る。そういう意味で、まだ統合に向けての話し合いはスタートしていないと回答した。

■参加者

子供の意見はいつ聞くのか。議事録はいつ出るのか。

□教育委員会

学校を通じて子供たちのアンケートは実施した。整理をして公表したいと思っている。議事録は精査して公表する予定。まだ説明会最中なので、いつ公表するかは決まっていない。

■参加者

パブリックコメントと子供のアンケートを、一般の人が見ることができるのか。

□教育委員会

パブリックコメントは、計画に対して市民の声を聞く。こういう意見があったので教育委員会としてはこういう考えだということを公表する。

子供のアンケートについては、統合がいいかどうかという直接的なことは聞いていない。クラスの数や人数はどうかというようなこと。整理したらホームページに掲載予定である。

■参加者

全部か、一部か。

□教育委員会

パブリックコメントは全部で何件かということと、意見に対しての回答、件数によっては同じ意見はまとめる。